

『日本書紀』天智天皇八年(668年)の記事に「佐平余自信(よじしん)・佐平鬼室集斯(きしつしゅうし)等、男女七百余人を以って、近江国の蒲生郡に遷し居く」とあります。これは、百済の官位である「佐平」の余自信と鬼室集斯の2人に代表される百済からの移民700余人が、近江国の蒲生郡に移り住んだという記事です。

この背景には、660年に隣国の新羅に百済が滅ぼされ、その後663年に百済復興を目指す百済遺民と倭の連合軍が、白村江で唐・新羅の連合軍に敗北して百済滅亡が決定的になったことがあります。これにより、百済から多数の人々が日本に渡来することになりました。

右記事に登場する「鬼室集斯」は674年に学識頭に任ぜられています。当時の最先端の学問(儒教や算・音・中国語の発音)に精通していたのでしょう。この「鬼室集

斯」の墓があるのが、蒲生郡日野町小野にある鬼室神社です。墓碑は社殿の後ろにある小さな石祠の中に収められており、高さ48寸、幅約9寸の八角柱状で三面に「庶孫美成造」「鬼室集斯墓」「朱鳥三年戊子十一月八日」と彫られています。□の部分の文字は欠損していて判読できませんが、「歿・殞・殂」の字に推定されており、ともに死去・逝去の意味です。

そうすると碑文の内容は「鬼室集斯の庶孫非嫡出子の孫美成」が、朱鳥3年(688年)11月8日に亡くなった鬼室集斯の墓を造った」と読めます。この墓碑に關しては、形状や碑文の解釈から、造られた時期を平安時代から鎌倉時代とみる人と江戸時代とみる人があり、前者

## 鬼室神社と鬼室集斯



鬼室神社

それは、現在、日野町で行われている交流事業に見ることが出来ます。日野町は1990年から大韓民国忠清南道扶餘郡恩山面と姉妹都市提携されました。扶餘郡は538年から660年の滅亡まで百済の都がおかれていたところです。そして、恩山面には鬼室集斯の父親、鬼室福信を祀る恩山別神堂があり、この鬼室親子が取り持つ縁でこの交流が始まりました。毎年、お互いに使節を送りあい、民間レベルで人・文化交流を深めています。

は後世の子孫が「美成」の名を借りて建立したとし、後者は「日本書紀」の記載を裏付ける資料を偽作したとしています。しかし、墓碑の真偽どちらであっても、百済の遺民が日野町を中心とした蒲生郡に渡来したことを示唆するものとして、むしろ、現在では渡来した人々を象徴するものとして扱われ、異文化交流や地域

## 最先端情報体现の功績息づく

功績は、現在にまで繋がっており、息づいているのです。

(財団法人滋賀県文化財保護協会 堀 真人)